

## 第12回伊豆沼・内沼自然再生協議会会議録

### I 日時

平成30年2月17日（土）午前10時から正午まで

### II 場所

登米市南方農村環境改善センター ホール

### III 次第

- 1 開 会
- 2 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員の再任について
- 3 議 題
  - (1) 会長・副会長の選出
  - (2) 報告事項
    - ① 平成29年度伊豆沼・内沼自然再生事業等について
    - ② 伊豆沼・内沼を利用したイベント等について
  - (3) 協議事項
    - ① 平成30年度事業計画（案）について
    - ② 伊豆沼・内沼自然再生全体構想及び実施計画の見直しについて
  - (4) その他
    - 伊豆沼2工区での農地整備事業について
    - 「生物多様性アクション大賞2017」および「第5回グッドライフアワードについて」
- 4 閉 会

#### 【配布資料】

（本資料） 次第・名簿・席次表

- |       |                                          |
|-------|------------------------------------------|
| 資料1   | 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員の再任について                   |
| 資料2-1 | 平成29年度自然再生事業の成果報告                        |
| 資料2-2 | 平成29年度伊豆沼・内沼自然再生事業水質改善効果検討調査業務           |
| 資料2-3 | 平成29年度伊豆沼・内沼自然再生事業関係 活動実績                |
| 資料3   | 伊豆沼・内沼を利用したイベント等について                     |
| 資料4-1 | 平成30年度以降の自然再生事業に向けた課題整理                  |
| 資料4-2 | 平成30年度自然再生関連事業計画（案）                      |
| 資料4-3 | 伊豆沼・内沼自然再生事業水質改善検討業務（案）（平成30年度）          |
| 資料5-1 | 伊豆沼・内沼自然再生全体構想 改定案                       |
| 資料5-2 | 釧路湿原自然再生全体構想（抜粋）                         |
| 資料6   | 農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業）伊豆沼2工区地区            |
| 資料7   | 「生物多様性アクション大賞2017」および「第5回グッドライフアワードについて」 |

## IV 会議内容

### 1 開会

事務局が開会を宣言  
定足数の確認  
配布資料の確認  
迫川上流土地改良区の高橋委員の辞任について報告  
加藤委員（公募委員）の訃報の報告

### 2 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員の再任について

資料1に基づき事務局（工藤課長補佐）から説明  
名簿、席次表については、変更がある旨の説明

### 3－（1） 会長・副会長の選出

江刺技術補佐：本日は、委員再任後、初めての会議になるので、当協議会の会長、副会長の選出を行いたい。規約第8条の規程により、会長及び副会長は委員の互選により定めることとなっているが、いかがするか。

嶋田委員：事務局案はあるか。

事務局：引き続き西村委員に会長を、斉藤委員に副会長をお願いしたい。

江刺技術補佐：事務局案に対し、御意見はあるか。

委員：異議なし。

江刺技術補佐：異議なしの声が多数あったので、引き続き西村委員に会長を、斉藤委員に副会長をそれぞれお願いしたい。就任にあたり、西村会長と斉藤委員に副会長からそれぞれ御挨拶をお願いしたい。

西村会長：今までも会長を務めていたが、十分に職をこなしていないと自覚しているが、これからは微力だが一層努力して、協議会の成果が最大になるようにがんばりたい。加藤委員の訃報を聞いて驚いている。ご冥福をお祈りするとともに、今後協議会の議論の成果、これまでの実績を踏まえ、伊豆沼・内沼自然再生がうまくいくようにしたい。

この協議会を運営するにあたり、いつも時間に追われて、皆様からの意見が頂戴できない懸念があるが、今回は、工夫して皆様の意見を少しでもいただきたいと思っているので、是非御協力をお願いしたい。

斉藤副会長：再び選出された。よろしくをお願いしたい。西村会長に一つだけ付け足すと、自然再生ということだけではものは長続きしないので、うれしい楽しい面白い、ということがあるようにしたい。そしてちょっと儲かるということがないと続かない。自然再生の柱の一つにワイズユースがある。ラムサール条約のなかでもワイズユースが一つの柱になっているので、そこをうまく使って、大もうけは出来なくても、少し儲かる、そういうことがあれば長続きすると思うので、そちらもうまく推進できればと思うので、皆様の御意見をお願いした

い。

江刺技術補佐：ここからは、進行を西村会長にお渡しする。

### 3－(2) 報告事項

#### 平成29年度伊豆沼・内沼自然再生事業等について 伊豆沼・内沼を利用したイベント等について

西村会長：報告事項について一括して事務局から説明願う。

藤本研究員：(資料2-1に基づき説明)

国際航業株式会社：(資料2-2に基づき説明)

荒木主任主査：(資料2-3及び資料3に基づき説明)

西村会長：今の説明について、意見、質問はあるか。

川嶋委員：資料2-1について、この協議会について、50年くらい前の自然について基準にしていると思うが、今から38年前。生きものが豊かだったころ。昭和55年に基準を定めたのは、何か大きな理由があったと疑問だったので説明してほしい。

藤本研究員：基本的には1980年に大きな洪水があり、マコモの群落が消失した。そのことにより大きく変わったということで、一つのキーとなっている。実際には水質汚濁はそれ以前の1960年中旬から始まっていたので、そこに戻すというのも一つであるが、まずは、わかりやすいところに目標を置いた次第。

川嶋委員：55年は伊豆沼・内沼にとっては、二回の増水があったということで、考え方としてはいいと思う。これだけでは一般的にわからないと思うので、そのときはなにか構想に付け加えてほしい。基準としてはこれでいいと思う。

西村会長：回答いただいたとおり、つねに見直しは必要だと思う。今は55年を目標にしている。次の10年計画をたてているが、ここについても議論して行くのは大事である。

伊藤委員：資料2-2の3ページ、伊豆沼の流速についてとあるが、荒川に排水される場所の流れについて、今年の会議で排水口の堆積土砂の撤去について質問した。県でも前向きに取り組んでくれるという回答だったが、その後どういう状況か伺いたい。

巻代理：沼の出口の土砂撤去については、やる予定で予算化はしている。昨年台風があった影響もあり、現地の測量作業が遅れている。測量作業を3月から4月にかけて行い現地の状況を把握したうえで、土砂の撤去等について検討したい。

西村会長：継続して検討をお願いする。

荒畑委員：資料2-2の見方を教えてほしい。調査概念図において、DO濃度は水深の表層で2割程度、底層で8割程度の位置で測定、流速については水深の6割程度の位置で測定とあ

るが、これは同じ水深で測定したわけではないということか。図2(2)を見ると、水深0.5mや1.5mとあるが、それぞれ異なる水深で測っており、0.5mのところもあれば0.6mのところもあるということであれば、この図にあるDO濃度は実測値もあれば、そうでないところもあるということになるが、どの様に判断して見たらいいのか。3ページにも流速の図があるが、同様に水深6割があるところでは水深0.6mで、あるところでは1.0mで測っているとすれば、水が上下に蛇行しているようになるが、どう判断したら良いのか教えてほしい。

国際航業：流速については水深の6割程度のところで測っている。伊豆沼は水深が浅いので何点も測れば良いが、鉛直方向の平均流速として、6割のところで測っている。一方、溶存酸素素について、表層2割、底層8割のところ、と資料に書いているが、実際の調査としては、図4を見ていただきたいが、このグラフのとおり、実際の観測はこれくらい細かく観測している。データの整合性について質問いただいたと思うが、実際のところはこのように調査を進めている。

荒畑委員：了

西村会長：簡略な資料であるが、データはあるということなので、表記については質問を踏まえて検討いただきたい。

ほかに意見、質問あるか。あるかもしれないが、次の説明のあと時間を取りたいので、先に進みたい。

### 3-(3) 協議事項

#### 平成30年度事業計画(案)について

#### 伊豆沼・内沼自然再生全体構想及び実施計画の見直しについて

西村会長：協議事項について一括して事務局から説明願う。

藤本研究員：(資料4-1に基づき説明)

荒木主任主査：(資料4-2に基づき説明)

小濱技師：(資料4-3に基づき説明)

荒木主任主査：(資料5-1及び5-2に基づき説明)

西村会長：今の説明について、意見、質問をもらうところであるが、私から一つ、藤本さんから説明があったが、水位を管理することで、伊豆沼・内沼の自然再生に様々な良い影響、予期せぬ影響が見られたとのことで、貴重な知見が得られた。関係各位の御協力があったことそのことで、地元の関係者の方々に厚く御礼申し上げたい。

地元の関係者の方に御意見いただきたいと思うが、土地改良区の安部委員、及川委員から何かあれば。

及川委員：2、3伺いたい。土木の方で、沼の浚渫について、計画していて、今年度の事業とのこと。工事するというのと、沼の水位を下げるということについて。改良区として工事することはいいと思う。工事の施工と水位を下げるということはこの計画には書いていないが、計画の中で、どう整合性をとって、どのように進めていくのか聞きたい。

卷代理：工事にあたって、現地にどのくらい堆積土砂があるのか、そのうちどのくらいの量を撤去が必要なのか、把握する必要があるため今年の3月から4月にかけて測量を行う。仮屋の排水ポンプ場が完成することもあり、治水という観点で、どのくらい土をとるのか検証する。誤解いただきたくないが、3月に浚渫するわけではなく、まずは数量を把握したい。その結果を踏まえて、どのくらい土を取るのか、生態系への配慮や、施工の時期や方法については、別の場で説明したい。

西村会長：自然再生事業の観点から治水のための浚渫を行うわけではないのだが、情報交換しながらよろしくお願ひしたい。

安部委員：沼の土砂の撤去というのは、荒川に通じる、最初の沼側の方が広く三角になって、水の流れが良かったのだが、だんだん土砂がたまって荒川の流れが遅くなったとの地元の意見。荒川に流れるところの土砂については扇状に広くしてほしい。

西村会長：調査の中でヒアリング等もあると思うので、よろしくお願ひしたい。漁協の大場委員何かあれば。

大場（隆）委員：伊豆沼・内沼自然再生事業そのものが、地元の人々にどれだけ理解されているのか。自分も5～6年程前に、漁協の役員になり、この協議会に参加するようになったので事業があることがわかるようになった。

伊豆沼は非常にデリケートな沼で、委員に土地改良区もいるが、田んぼに使う水が年々増えているということは、水を潤沢に確保したいからである。今現在でさえも水は足りない。毎日揚水時期に水を毎日あげているわけではない。途中で水利権の量を見ながら水をかけたが我慢する時期もある。

一昨年の秋に水位をわざと下げたが、異常に雨、水が少なくて、ハスがハクチョウに食われた。水位を下げることは簡単だが、上げることはできない。雨の日を待つ以外ない。そのときに誰がどのように責任を持つのか。みんなが全部伊豆沼で生活しているわけではない。田んぼで生活している人、漁業で生活している人、ハスを刈れば水は綺麗になるかもしれないが、はすまつりの時期に、ぼつぼつとあるハスを見て綺麗だと思う人はいない。ハスが全面的に伊豆沼を覆っているから大変有名になった。

そもそも伊豆沼はハクチョウが来る沼だった。水門の関係で水位がどんどん下がって、沼の水深が下がって、ハスの条件が良かった。その頃は、手こぎの船だったので、水深はあまり影響なかった。現在は船外機付きの船なので、ある程度水量がないと、ハスクルーズの船は出せない。ハスがあれば船が出せるかという、天気がいいと船が出せるギリギリの水位の事がある。自然の天候に左右される現状がある。

関係者に小委員会みたいな、沼の観光関係者と土地改良区の田んぼの関係の方々と、1人で水位を下げているですか、と聞かれても後ろに抱えている人たちの意見を聞かないことには問題が大きすぎて、難しい問題がいっぱいあるので、水とお金と今現在置かれている沼の現状と色々な方々を交えた中で知らしめていかないと、「どんな責任取るんだ。どんな意見言ってきたのか」と問題になると思うので、その辺御配慮いただきたい。

西村委員：貴重な御意見をいただいた。提案としては、さらに議論をする機会を、とのこと。協議会でも議論は不十分で、たくさんの方が参加しているので、皆様から一言ずつでも意見を賜りたいところである。いろいろ調整する必要があるので、議論を深めていきたいが、なにぶん時間も無い。別途話をする機会を作りたいと思うので、検討を進めたい。これから続

けて御意見いただけるか、時間内ではなくても、後ほど、事務局の方に意見を寄せてもらってもよい。

伊藤委員：会議そのものの時間を増やすことは出来ないと思うので、部会を設置してもらい、それぞれの関係部会の中で充分時間をとって審議して、協議会の方にあげるという仕組みを作っていただきたい。

西村会長：検討させていただきたい。

金野次長：伊豆沼・内沼の自然再生の取組については、「伊豆沼・内沼自然再生全体構想」、「伊豆沼・内沼自然再生事業実施計画書」を策定し、委員各位の御協力のもと、これまで取り組んで来たところである。その結果、ミコアイサの飛来数の増加やゼニタナゴが新しく発見など、少しずつではあるが、自然環境が再生されてきている。今後も継続して伊豆沼・内沼の自然環境の再生のためには、今後も継続した取組が必要と考えている。これまでの成果を取りまとめた上で、全体構想等の見直しを進めたい。今後とも引き続き、委員の方々の御意見いただき、取り入れながら、自然再生を進めていきたいので協力いただきたい。

川嶋委員：資料4-1の9ページについて、水位と湖岸の植生のところで、水位をKPで表現しているが、一般的に沼の水位が話題になる時に、なにかわかりやすい表示が資料にあるといいと思う。沼のハスの刈り取りについて、刈ったハスの処理をどうしていくのか。クリーンキャンペーンが毎年あって、今度59回目になるが、昭和57年から行い、これは継続されると思うが、伊豆沼の自然再生については、地域の住民、多くの方が参加している。元3町の方が集まって力を合わせている。何らかの方法で、表現してほしい。

藤本研究員：KPについては何か別の表現を使うことは可能だと思う。説明していなかったが、伊豆沼湖岸が浸食された関係で、伊豆沼水面面積が昔より広がっている。378haから400ha以上まで広がっており、現在GISデータで処理しているところである。昔とデータが違うので、そこも含めて整備していきたい。

西村会長：他に何かあるか。

川嶋委員：クリーンキャンペーンについては、全体構想の中の位置づけもあるので、記載について、事務局で後程検討いただきたい。水位について一般的にKPについても、だいぶ知れ渡っているが、深さの関係では、なかなか知りたいところがあってもわかりにくいとおもう。ある時期の基準にあわせてKPの記載もしてもらえればと思うので検討してほしい。

事務局：御意見を踏まえて対応させていただきたい。

阿部（泰）委員：大場さんの意見をきいてそういうことだなと思った。商工観光両方やっているので、広域連携を重視している。自然再生協議会だが、産業の再生であり、生活の再生であり、地域の再生であり、観光の再生であり、連携した中で意見をぶつけ合って、地域の活性化と再生を図っていくことが大事じゃないかと思う。今日は自然再生という専門的な立場だがそういうことが大事だと思う。

西村会長：貴重な御意見をいただいた。資料の説明の中の、地域興しなど重要なキーワードが

でている。自然再生事業の目的は生物多様性を保全するだけでなく、それを賢く使うということで、副会長が冒頭で申し上げたが、皆様に楽しんでもらえればありがたいというえに少しお金の循環があるといいということは、自然再生事業の目標に入っている。この辺の議論が十分に出来るといいが、いつも時間がなくて申し訳ない。

この件については、30年度に何を実施するかということと実施計画等の見直しを始めるという説明であるが、いただいた御意見を踏まえて見直すところは見直すということと、部会の設置を検討するということが、御意見を踏まえて適切に実施していくということと進めるということとよろしいか。十分に言えなかった意見については、事務局へ話をしてほしい。

### 3- (4) その他

西村会長：情報提供として、伊豆沼2工区の農地整備事業について簡潔に説明願う。

白瀬班長：(資料6に基づき説明)

西村会長：今の説明について、何か質問御意見はあると思うが、あとで伺う事にして、もう一点「生物多様性アクション大賞 2017 及び第5回グッドライフアワード」について情報提供願う。

石場自然保護官：(資料7に基づき説明)

西村会長：簡潔に説明いただいた。今の2つの説明について、何か質問御意見はあるか。

大場(寿)委員：紹介いただき感謝したい。年間通じていろんな体験活動している。ここ数年、活発に事業を展開できるようになった。構想の見直し時期に入るということで、全体構想の25ページへの記載を期待している。なるべく具体的な将来の目標を入れてもらえるように自分たちも意見が言えるような、小委員会の設置を希望したいと思っていた。再生事業の主なものは高度な保全活動で、財源はそちらに使われるとは思っているので、今日の提案としては、グリーン・ツーリズムの分野であれば農泊事業が農水省から展開されていて、その中に「広域ネットワーク」の事業がある。また、エコツーリズム推進法の事業もある。いずれもその枠組みには基礎自治体の参画が必要になっている。そういった事業への取組と自然再生事業の整合性とりながら進められるといいと思っている。

今展開中のイベントのお知らせと、古民家を借りているが、購入計画をたてているため寄付のお願いのチラシも配っているので見ていただきたい。

西村会長：ご発言いただき感謝する。受賞おめでとうございました。自然再生事業としても、このような活動が重要な中核となる事業となっていくので、部会等作るときにはお願いしたい。また、農地整備事業に関しても農地自体多様性の重要なところなので、活用して、例えば都会の人に、おいしいお米はこうして作る等を理解してもらおうなど、なにか活動につながってほしいと思う。御意見あると思うが、時間も過ぎたので、今日の協議はここで終わらせていただきたい。

## 4 閉会

事務局が閉会を宣言